

長崎県幼児教育センターだより

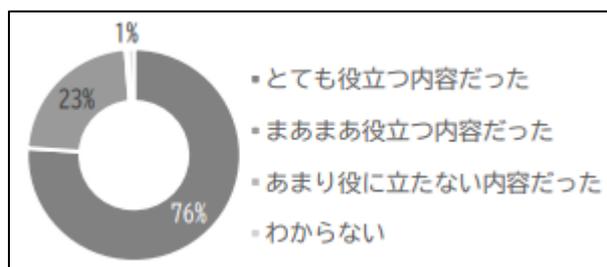
🚩 No. 15 🚩 2024. 5. 9 🚩



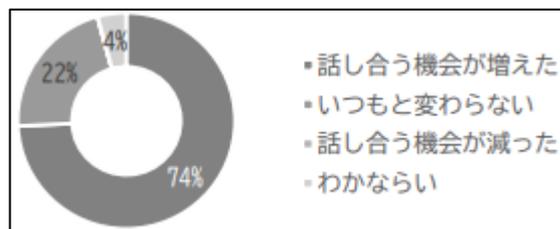
～「学ぶ保育士等応援事業」～

昨年度から、園内研修等の充実を図り、保育の質を高める目的で始めた、長崎県独自の「学ぶ保育士等応援事業」（補助金額1人あたり2万円）ですが、今年度も引き続き行います。昨年度は、3200人を超える方が研修を受け、99%の方から有益な研修だったと回答がありました。また、研修後、職員同士で話し合う機会が増えたという回答も74%と高く、研修後、保育の質を高めるためことにつながっているのではないかと思います。今年度も、保育の質を高められるよう、研修をサポートしていきます。

【研修は、今後に役立つ内容でしたか（有益度）】



【研修後、話し合う機会が増えましたか】



- ・以前から外部での研修を他職員に報告する形の園内研修が行われていましたが、報告書だけでなく皆で集まったの研修は、意見も出やすく知識も深まりやすいと思う。
- ・全職員が共通理解を深められて、今後の保育に活かせるように考えさせられる研修となった。よい機会となった。
- ・とても良い事業だと思う。園全体での情報共有や意識の高まりにもなる。
- ・今後も続けていくことで保育者同士が意見を出しやすくなる環境が増えるのではないかと思います。

なお、長崎県幼児教育センターが行っている「幼児教育アドバイザーによる訪問支援」も本事業補助金の要件を満たします。補助金申請前でも、さかのぼって研修の要件として認められますので、希望があればお早めに御連絡ください。アドバイザーの派遣についてはホームページから依頼書をダウンロードしてお申し込みください。

➡ 検索 長崎県幼児教育センター

(幼児教育センター直通 095-895-2686)



～幼保小連携～



文部科学省から、「幼保小の架け橋プログラム」が示されて3年が経過し、県内でも幼保小連携が進んでいます。卒園した年長児が新1年生として入学して1か月が経ちました。それぞれの学区で子どもたちの交流や教師間の情報交換なども行われていることと思います。

園の先生方は、「活発に動き回ってダイナミックな遊びを楽しんでいた子だったけど、座って授業を受けることができているかな?」「給食を食べる量が少なかった子だったけど、小学校の給食の量には慣れたかな?」など、卒園した子どもたちが小学校生活に馴染んでいくことができているか、気になることはありませんか。小学校の先生に尋ねてみたいけれど、いきなり連絡するのはハードルが高いなど感じるかもしれません。では、気軽に小学校を訪問し、子どもたちの様子を参観する機会があればどうでしょう。長崎県では、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が、5月～7月、9月～11月の期間で行われています。地域等への学校参観も呼びかけていますので、園の先生方の訪問も可能です。実施の期間は各市町で決まっていますので、園長先生を通じて、参観したい小学校に連絡されるといいのではないのでしょうか。子どもたちの様子を参観することで、小学校への接続を意識した日々の保育について考える機会となるのではないのでしょうか。

小学校生活は「はじめの一步」ではなく、幼児教育からの「続きの一步」です。教育週間をきっかけに、幼保小の先生方の交流が活発になると、「続きの一步」へ、また一步近づくことでしょう。

～キャリアアップ研修について～

長崎県が実施する保育士等キャリアアップ研修について、現在、多くの問い合わせをいただいております。研修の実施内容及び時期につきましては未定です。決まり次第県のホームページでお知らせいたしますので、定期的にご確認いただきますようお願いいたします。

(文責：小林 真実)

自己肯定感はその子を支える

訪問支援で園を回っていると、子どもの背景に様々な課題があることが見えてきます。保護者の考え方が多様化し、園として「保護者にはこうあってほしい。」という願いはあっても、なかなかそのとおりにはいかないものです。先生方の日々のご苦労をお察しします。

保護者には、この乳幼児期の大切さとかげがえのなさを十分理解し、子どもと関わってほしいと思います。そのために園便りや保護者会、対話など様々な手段でお伝えしていらっしゃることでしょう。それでも、中には、保護者が日々の生活で精一杯で、自分の子どもをついひどく叱ってしまう、寂しい思いをさせてしまう、ほったらかしにしてしまう、などの現状もあります。そんな子どもに問題行動が見られる場合もあります。それを園でも叱られて・・・

そんな場合、園にできることは何だろうと考えます。自分に置き換えて考えてみました。大人になっても「自分ってだめだなあ」と落ち込むことがあります。そんなとき、どうやったら気持ちが回復するか、それは周りの人から「ありがとう。」「あなたのおかげで助かった。」と感謝されたり、「あなたってすごいね。」と認められたりすることを積み重ね、じわじわと心が回復していくようです。「私でもいいんだ。」「私を分かってくれる人もいるんだ。」と。

もしかしたら、家庭で「自分はだめなんだ。」と落ち込んだとしても、園に来て、先生や友達からたくさん認められたり、感謝されたり、ほめられたりしたら、自己肯定感がじわじわと上がり、前向きになれるのではないかと思います。園でできること、それは、子どもの自己肯定感を高めること。それが、その子の心の支えになります。

(センター長 室野)